



☆「合格答案を作れ！」自分の力を全部出すこと☆

入試ではたったの1点が合否の分かれ目になることもある。自分の実力を最大限に表せるように、ここで合格答案作りのベストテクニックを覚え、試験場での成功をめざそう。

「合格答案」とは、問題そのものの解答だけでなく、文字の書き方、記号一つ一つまでも正確なものでなければならない。次に「合格答案づくりのコツ10ヶ条」をあげる。試験を受けるにあたっての鉄則なので、必ず実行したいものである。



[1] テスト開始!

問題用紙が配布されたら、目を閉じ、静かに深呼吸をする。＜あがる＞ことは最大の敵である。ゆっくりと、大きな深呼吸なら、あまり時間のロスにもならないだろう。

[2] 受験番号と氏名を書く。

問題を読む前に、まず受験番号を書こう。第1問は、受験番号の記入と心得よ!

[3] 全問に目を通そう。

問題の難易(簡単or難しい)を見分け、時間配分を考える。

[4] やさしいものから解く。

自分の得意なものからやることは、気分的にも楽になり自信もつく。時間も有効に使える。必ずしも、第1問から順番に書かなければならないということはない。

[5] 解答の方法を誤るな。

①何を、どこに、どのように答えればいいのか。②正しい方を選ぶのか、正しくない方を選ぶのか。③指示以外の余計なことは書かない。④記号や符号で答えるところに「語句」や「文章」を書いたりしない。

[6] 正確な文字や記号を。

文字や記号は、正確に、丁寧に。かな使いや送りがないにも十分注意する。誤字、脱字、あて字は使わない。自信の持てない漢字は使わないこと。

[7] 「やさしい」問題を解くにあたって。

一見やさしそうだが、一度やった問題と同じような問題が出されると、気をゆるし、＜安心感＞から油断して間違いやすいものである。慎重の上にも慎重に、やさしい問題こそ、確実に得点できるようにする。

[8] 難問をどうするか。

すぐ解けそうだと取りかかったが、途中で急に難しくなったからといって、それにのみこだわってはいけない。時間の浪費になり、あせりを招き、ひいては当然解ける問題までダメにしてしまうからだ。難問・長文問題は、抜き書きしたり、図解したり、また表を作って、分解整理せよ。

[9] 最後までギブアップするな。

問題の中には、「やさしい」問題もあれば「難しい」問題もある。難しいと思っていても途中で投げ出すな。自分にとって難問は、他の人にとっても難問なのだ。決して時間まで、あきらめてはいけない。

[10] 答えを書き終えたら・・・

全部書き終わったら、必ず確認をしよう。確認の段階でミスに気づくことも多い。解答欄の空白には、たとえ自信がなくても必ずうめておくようにしよう。再チェックで10点up!

～心にゆとりを持ち、真剣に取り組もう。道は必ず開かれるものだ。みんなの合格を祈る。～